

肉用牛の肥育成績向上で収益アップ

～上物率・サシ(脂肪交雑)が大幅に向上～

【概要】

平成19年度から実施している肥育技術向上プロジェクトチームによる血液分析を中心とした飼養管理指導の実施により、肥育成績が向上し、収益アップに繋がった。

【対象名】

十和田おいらせ農業協同組合
肥育牛部会（20名）

【背景・課題】

- ・肉用牛の肥育経営において、利益に直接反映する肥育成績（上物率・脂肪交雑等）の向上が必要だった。
- ・牛の健康状態を把握しながら、サシ（脂肪交雑）が多く入った肉質の良い枝肉を生産するかが課題であった。



肥育牛の採血

【取組の内容】

- ・市、農協、大学、県民局等で組織した「肥育技術向上プロジェクトチーム」を編成して、牛舎環境や飼養管理について定期的な巡回指導を実施するとともに、肥育技術向上のための勉強会も開催しながら、部会員の肥育技術レベル向上に努めた。

肥育成績及び販売価格等の推移

年度	枝肉重量 平均 (kg)	BMS No. 平均	上物率 (%)	5等級率 (%)	平均販売 価格 (千円/頭)
25	494.1	6.7	76	33	913
26	498.6	6.6	74	31	952
27	504.7	7.0	81	36	1,166
28	510.5	7.1	82	37	1,249
29	508.2	7.0	77	37	1,168
30	510.2	6.7	85	28	1,187

※JA十和田おいらせデータ

【成果（収益性アップ）】

- ・JA十和田おいらせ肥育部会員の肥育牛の品質は、枝肉重量や上物率（4等級以上率）が上昇するなど年々向上している。一方で、近年の子牛価格の高騰に伴い、一貫経営では、早期に収益を確保するため、子牛での出荷が増加していることから、肥育牛の出荷頭数は減少している。

※ 令和2年度に開催されたあおり和牛産地枝肉市場では、肥育牛部会の会員である小笠原治氏が最優秀賞を受賞（格付：A5 BMS No.12）している。